

令和8年1月29日

兵庫県警察 神戸北警察署
刑事課長 御机下

医療法人聖粒会 慈恵病院
理事長兼院長 蓮田 健

貴署管内で発生した孤立出産女性へのご対応について

前略

私は熊本県熊本市に位置します慈恵病院で産婦人科の診療に携わっております蓮田健と申します。当院は親御さんが自ら育てられない子どもを匿名でお預かりする「このとりのゆりかご」(俗に「赤ちゃんポスト」)や内密出産の事業に取り組んでおります。また、これらに加えて妊娠相談窓口を開設しております、全国から寄せられる妊娠の困りごと相談に対応しております。

そのような中、ご存知のように神戸市内に在住の女性が自宅で死産してしまう事例が発生しました。この女性は1月24日(土)午前10時頃に出産したものの、生まれた子どもが蒼白で泣きも動きもしないことから死産に至ったことを知りました。彼女は妊娠前から多くの困難を抱えており、心にも不調を来し、家族をはじめ周囲に助けを求めることができずにいました。死産後の手続きを調べるうちに当院の妊娠相談窓口にとどり着いたので

彼女は1月25日(日)午前6時25分、つまり死産から24時間以内に第三者である当院の相談窓口に、「助けてください」というタイトルでメールを送信しています。その内容につきましては既に様様の元に熊本県警察から届けられていることと思います。彼女が我が子のご遺体の隠匿を図るつもりであれば、見ず知らずの病院に助けることはないはずで

またご遺体の置き場所につきましても、レジ袋に入れて自室のクロゼットに置いた状態でした。死体を遺棄する意志があれば、ごみ置き場などに放置するはずで。入れ物のレジ袋につきましても、これは本来ごみ袋ではなく、買い求めたものを保管・所持するための容器です。出生直後の新生児の遺体は血まみれ、羊水まみれになっていますから、液体

を通さない容器に保管しなければなりません。出産直後に大量の出血を来し、立ちくらみという貧血症状を患い、さらには産道に傷を負っている女性にとって、先の処置は精一杯のものであり、決してご遺体の尊厳を傷つける行為とは言い切れません。

医療関係者が不在のまま出産してしまう孤立出産の結果、死産に陥ってしまった場合、生まれてきた新生児の死因を調べ、事件性がないかどうかを検討することは不可欠です。ですから私はこのような女性には必ず警察に相談することを勧めています。しかし、それは逮捕されることを意味してはなりません。知識や理解があり判断力のある警察官なら、逮捕せずに情報収集できるからです。

世の中には逮捕されずに書類送検される事例があふれています。昨日は愛知県警の警察官が器物損壊の容疑で書類送検されるニュースが流されました。また先週には大阪府警の警察官が在宅起訴された記事を目にしました。素人が申し上げるのは「釈迦に説法」で、僭越ですが、逮捕を必要とするのは逃亡や証拠隠滅の恐れがある場合です。本事例において、そのような状況があったとは考えられません。彼女は自宅に家族と同居し、出産後の貧血や創痛で身動きにも支障をきたす状態でした。また同種事件の捜査におきまして、事件発生時に現場やその周辺で捜査の専門家が情報収集を行えば、証拠隠滅の余地はありません。本事例において逮捕の必然性はないのです。

私はこれまで孤立出産の末、死産となった女性たちから相談を受けてきました。そのような事例の中で、例えば東京都や熊本県の警察署では逮捕せずに取り調べを進め、処分保留、不起訴になった事例がありました。同種事件でも逮捕せずに取り調べは可能なのです。

今回、貴署は情報提供者である私に全く聴取をなさらないまま逮捕に踏み切られました。私のこれまでの経験では初めてのことです。確かに熊本南警察署の方は当院にお越しになり情報収集をなさいました。しかし第三者が述べたことを鵜呑みにせず、情報提供者に直接確認なさるのが、これまでのご対応でした。この点につきましては、貴署のご対応は杜撰と言わざるを得ません。

死産に至った女性の心のダメージは図りしれません。昨日までお腹を蹴っていた我が子が変わり果てた姿で生まれてきたのですから。また出産後の母体の身体的ダメージも心配です。貧血や傷で弱った体です。心理的にも出産後はマタニティブルーズに代表されるように、抑うつ状態が強まります。特に本事例の女性は妊娠前から心に不調を訴えていましたので、出産時やその後の逮捕の影響などで精神に不可逆性の病状を抱えないかを心配します。私に対応時に最も心配したのは自殺の危険性です。

われるかもしれませんが、この方々は八方ふさがりの事情を抱えていらっしゃいますので、私たちは門前払いをせずに事情を伺い、熟慮の末に方針を決定します。

広く国内を見渡しますと、本事例における■■■■様や貴署のご対応は決して特異なものではありません。多くの警察官は、「孤立出産の末、死産だった女性」を自動的に逮捕します。その一因には経験や知識のなさがあります。そして不起訴になり、警察官は何事もなかったかのように通常業務に戻ります。しかし罪を着せられ、名前を暴かれた女性と、その家族の人生には深い傷が残ります。このような対応が日本の警察からなくなる日が来ることを願います。

私は熊本南警察署の方々が「大岡裁き」をなさると感じる場合があります。事務的・機械的な対応ではなく、目の前にある状況を様々な観点から評価し、最終判断をなさいます。貴署や兵庫県警察の方々が、孤立妊産婦にそのような対応をしてくださる日が来ることを切に願います。

草々